

## 平成30年度第4回養老町地域公共交通会議 議事概要

●日時 平成31年2月28日(木) 10:00~11:00

●場所 養老町中央公民館 2階第5会議室

●出席者〔委員〕

中部運輸局岐阜運輸支局	鈴木 隆史
岐阜経済大学教授	竹内 治彦
岐阜県庁都市建築部公共交通課	水野 昭人
岐阜国道事務所大垣維持出張所	蒲 雅志
大垣土木事務所施設管理課	金森 隆史
養老警察署交通課	加藤 康生
大垣警察署交通第一課	後藤 努
海津警察署交通課	荒木 明弘
名阪近鉄バス(株)	山田規光久
スイトトラベル(株)	西川 勝則
岐阜近鉄タクシー(株)	石間 正
養老線管理機構	中川 真澄
養老鉄道(株)	植松 知也
岐阜県バス協会	林 直樹
名阪近鉄バス労働組合	太田 智和
養老町区長連絡協議会	安田 澄雄
養老町老人クラブ連合会	陸田 靖則
養老町老人クラブ連合会	澁谷八代子
大垣市生活環境部生活安全課	馬淵 義昭
大垣市上石津地域事務所	堀本 直紀
海津市市民環境部市民活動推進課	長谷川 淳
輪之内町住民課	野村みどり
養老町長	大橋 孝
養老町産業建設部長	田中 一也

〔随行者〕

中部運輸局岐阜運輸支局	奥村 詩歩
名阪近鉄バス(株)	三好 高広
大垣市生活環境部生活安全課	中島 茂樹

〔事務局〕	養老町産業建設部建設課	高橋 正人
	養老町総務部企画政策課	川地 憲元
	養老町産業建設部建設課	堀田 英利
	養老町総務部企画政策課	伊藤 良彦
	養老町産業建設部建設課	香川 明美
	養老町産業建設部建設課	内藤 伸也

●欠席者 大垣タクシー（株） 大角 勇雄

●議題 協議事項 1 (1) 養老町地域公共交通網形成計画（素案）について  
 その他 平成31年度地域公共交通網形成計画策定スケジュールについて

●議事

協議事項 1 (1) 養老町地域公共交通網形成計画（素案）について

○事務局から説明

（資料 養老町地域公共交通網形成計画（素案）に基づき説明）

- ・養老町の交通の将来像を「地域を繋ぎ人と人を繋ぐ地域公共交通が充実したまち 養老」とし、その実現に向けて基本方針を3つ設定します。
  - I. 「都市間の交流と地域間の連携を確保するまちづくり計画や観光・産業振興と連携した交通ネットワークの形成」
  - II. 「多様な町民ニーズに対応した利用しやすく、わかりやすいオンデマンドバスサービスの充実」
  - III. 「養老町の公共交通に関わる全ての関係者が連携・協働し、公共交通を支え育む取り組みの推進」
- ・計画区域と計画期間
 

区域は養老町全域、期間は活性化再生法に基づき5年とする。計画期間内でも安全性の確保や利便性の向上に配慮した施策や事業の見直しは適切な時期に実施していきます。

- ・計画目標については、全体目標を将来像である「地域を繋ぎ、人と人を繋ぐ地域公共交通が充実したまち 養老」の実現とし、目標値として、公共交通利用者数の維持と満足度の向上を設定します。
- ・養老町の公共交通ネットワークを構成している養老鉄道、各種バス交通、タクシーの機能の明確化とサービス確保の考え方をまとめ、ネットワークの再編方針、交通結節点の整備方針を設定します。計画の目標を達成するために行う各種施策・事業について、実施スケジュールと実施主体を示し、公共交通に関わるすべての関係者が協働で各種利用施策を実施していきます。
- ・計画の達成状況の評価については、毎年、計画目標の達成状況の評価・検証し、計画最終年度に養老町地域公共交通網形成計画の見直しを実施する。また、個別事業や路線の評価・検証については、進捗状況や達成状況の評価・検証するとともに、目標値を達成できていない場合の要因の分析を踏まえ、改善策を検討し、養老町地域公共交通会議に諮っていくこととします。

#### ○委員からの質問・回答、意見・提案等

- ・目標値について、オンデマンドバスの利用者は高齢化により増えるのではないかと。また、計画の目標：公共交通全体の満足度が現況値10%以上となっているが、色々施策を実施して目標値が現況値以上では低すぎるのではないかと。
  - ・評価指標の名阪近鉄バスの乗車人員について、路線全体の乗車人員とのことだが、この計画は養老町の計画なので、目標値は養老町内での乗車人員で設定された方がいいのではないかと。OD等のデータはあるのですか？
- 乗降調査で、全便でなくサンプルのOD調査を行っています。利用者×町内のODの割合で予測値を出すことは可能です。乗車人員の設定については検討します。
- ・海津線についてですが、大垣市内の乗降者は多く、その他は、少ないという実績があります。養老町の取り組みが反映されるような目標値の設定にしてくださいとお願いしたいです。

- ・養老線網計画、再構築計画に $+\alpha$ の数値を目標値にされたということですが、養老線網計画等でも、様々な利用促進施策を設定しています。 $+\alpha$ の数値ということは、どの部分が養老線網計画、再構築計画より $+\alpha$ の利用促進施策になっているのでしょうか。

→パーク&ライド駐車場は、養老線の計画に含まれる部分であり、オンデマンドバスのマップ作成や地域と協力しての取り組みについては、独自の $+\alpha$ の部分となります。

- ・養老線の計画の目標値よりも高い数値の設定されたのは、養老線以上の施策が計画されていないと目標値が達成されないのでは。目標値が達成可能な数値なのかどうかの整合性について、改めて検証していただければ良いかなと思います。

- ・目標値に対する調査のタイミング、調査年度等について補足していただければと思います。

→全体目標は、5年後の目標値です。アクションプログラムを取り組んだ結果の数値です。個別事業の評価指標の数値は、個々の施策を実施することによって、個々の路線について毎年チェックしていくものです。これを毎年実施することで、全体目標に繋がっていくということです。2つの検証を行っていきます。

- ・人口が減って、利用者も減るのであれば、満足度があがらないといけないと思います。公共交通満足度は、利用する方、利用しない方もあわせてというとらえ方が良いのか、もう少し検証して頂く必要があるのかなと思います。

- ・利用人数は、将来減ることが見込まれるということは納得できますが、利用者の満足度を上げるということは可能ではないかと思います。

- ・認知度についてですが、ずっと取り組んでいくものですので、認知度は上がっていかないとまずいと思います。路線別満足度も乗っている人の満足度ですので、上げようと思えば、上げれるのではないかとと思います。

- ・観光シャトルバス利用状況について、どれだけの利用があつて、今後どうしていくのかについて書かれていると良いと思います。今後観光部署とも調整していただきたいと思います。

- ・地域間連携路線の実証実験ですが、今後変更していくうえで、ウエイトの高い事業かなと思いますが、実証実験はどのような形で、実施していくのでしょうか。

→現在運行しているオンマンドバスのODデータがありますので、それをベースに利用の多いルートに集約させていくという形で、定時定路に近い形での運行を考えています。スケジュールは、今後検討していきたいと思います。

- ・計画が全体的にデマンド中心の内容が盛り込まれているかなと思います。デマンドが養老線の利用に繋がっているかというところではなく、しかし、養老線の利用に関する目標値が下がっていないということで、整合性の必要があるのかなと思います。

## その他 平成31年度地域公共交通網形成計画策定スケジュールについて

### ○事務局より

- ・次年度は、最終的な計画策定へと進めます。会議の開催につきましてはアクションプログラムの検討を進めている中間時期の6、7月頃、計画案をまとめる時期の秋頃、パブリックコメント後最終案のまとめる時期の2月頃の3回を予定。年度末頃に計画の策定で進めてまいります。